

●ケーブルテレビ開局

過疎、高齢化の村が情報化の推進で、一躍時代の先頭に立った。人口約二千人。高齢化率が40%を超え、年々人口流出が進む北郷村。そんな山里が今、情報過疎の悩みを解消、情報先進地、テレビも十八チャンネルが見られる「多チャンネルの村」に生まれ変わった。

同村は農林業が中心。火伏せ地蔵を祭る宇納間地蔵で知られ、地蔵祭りには村外からも多くの人が訪れるが、そのほかではほとんど脚光を浴びることはなかった。それが情報化の推進で変わった。視察に訪れる自治体も多い。「多チャンネルの村」に今、熱い視線が注がれている。

転機は二〇〇一（平成十三）年四月の村直営ケーブルテレビ「きららびじょん」の開局。行政情報の双方向通信など高度情報サービスの提供を目的に、基地局と村内の全世帯七百五十九戸を六十三^キの光ファイバーで結んだ。県内で

のケーブルテレビ開局は延岡、宮崎、都城市に次いで四番目。町村では初めてだった。

取り組みは一九九八（同十）年度。九州で初めて農水省の田園マルチメディア整備事業の指定を受け、整備を進めた。情報過疎からの脱却、高度情報化による地域振興、村民の先進的意識の育成など、IT（情報技術）時代にふさわしい村づくりへの願いが込められていた。

効果はすぐ表れた。それまで村内で視聴できたテレビは県内の地上四波。それも山が深いため、難視聴地域も多かった。それが難視聴が解消されたほか、熊本県の民放二波、CS放送など一気に十八チャンネルが各家庭に届くようになった。電話回線もケーブル網を利用、村内電話、インターネットの常時接続が無料になった。

このほか、高齢・介護世帯二十一世帯のコンピュータ端末とを結び、専門家が日常的にア

ドバイスする在宅介護サービスも始まった。

拠点が村役場敷地内に設けた「きららびじょん」の放送センター。最新鋭の映像編集機器がそろい、専属スタッフ二人が自主番組の制作、放送にあたっている。これまで北郷小、中学校の入学式、地区体育大会、文化祭など地元の話題を取材して放送。

役場横の研修施設「夢であい館」には常時十六台のパソコンを配置、誰でも触れることができる。最近では自宅パソコンで県外の孫とメール交信する高齢者も多い。多チャンネル、ITの推進は確実に村を変えている。

南村正明



放送センター「きららびじょん」。最新鋭の映像編集機器がそろう